



開催概要

日時：平成 28 年 2 月 12 日（金）10:00～12:00
 場所：都筑区役所 6F 大会議室
 主催：都筑区役所地域振興課地域力推進担当

当日のプログラム

- ◆ 開会あいさつ 都筑区 畑澤 健一 区長
- ◆ 職員研修の振り返り studio-L 西上さん
- ◆ 区民との協働による取組の成果発表
- ◆ 講演「人と人をつなぐコミュニティデザイン」 studio-L 代表 山崎亮さん
- ◆ 閉会

開会あいさつ

「今日は、区で活動されている皆さんをはじめたくさんの方にお集まりいただき、大変嬉しく思っています。また都筑区以外からも行政職員が多数参加されているようです。今日はみなさんの地域づくりのヒントになるような話が聞けることを楽しみにしています。また、来年度、地域で活動されている皆さんと区職員が協力して学び、活動していく『地域づくり大学校』を開校します。今回の講演に興味を持っていただいた方には是非ご参加いただければと思っています。」



畑澤 健一 区長

取り組みの説明

都筑区では、区民とともに地域づくりに取り組む職員の育成を目的として、地域スキルアップ研修を昨年の 10 月から実施しています。都筑区は地区によって特徴が様々でニーズも多種多様であることや、まちの担い手不足が課題として挙げられます。一方で、スキルを持った区民が潜在的にいるのも事実です。そこで、先ほどご紹介があった『地域づくり大学校』の開校を検討しています。全 5 回の研修では、住民の皆さんと協働を行っていくためには行政としてはどんな役割を担うべきなのか、どんなことができるのかということを考えてきました。今日は研修成果として、実際に 3 つの地区をモデルにした、楽しく地域の課題解決に取り組む 3 つのアイデアを発表したいと思います。



成果発表



「地域づくり大学校」をやるチーム プリレン

地域意識が希薄な新興地区を対象にした企画。カリキュラムは全 6 回で、まち歩き、農業体験、先端技術体験、講師を招いてふるさと大切さを学ぶ、防災キャンプなど、大人や子供にとって、ふるさとにしたいという想いを感じるきっかけを作る。



「つながりを作るカフェ」チーム ゆるねこ

地域づくりに関心がない、関心があってもきっかけがないという人を対象とした。地域で遊べる大人会がコンセプト。コーヒーの魅力体験してもらいながら、最終的に参加者がカフェを作るというカリキュラム。コーヒーをきっかけに緩やかなつながりを作っていくことを目指す。



「〇〇な終活」

チーム 区役所の 5 階から自治会加入率 100%、高齢化率 41% の地区を対象とし、子どもと接しながら、人生を振り返る機会をつくる。また説法を聞いたり、遺影撮影会などを通じ、最終的に終活ノートにどんな風に最期を迎えたいかを書いていく。お年寄り子どもが緩やかに繋がれる仕組みもポイント。

概要

つづきつながりフォーラムは、都筑区で何か楽しいことを始めてみたい人、地域でのつながりを作りたい人、活動をもっと広げたい人などが集まり、都筑区のこれまでとこれからの地域づくりの取り組みや区役所職員の発表を聞きながら、次の一歩を考える場として 2 月 12 日に都筑区役所大会議室にて開催されました。全国で市民が主役になるまちづくりを数多く実践されている studio-L 代表、東北芸術工科大学教授の山崎亮さんをゲストに迎え、これからの地域づくりに大切なことや、やりたいことの実現のヒントを探ります。当日は区内外から 103 人の方にご参加いただきました。このレポートでは当日の様子や、成果発表、講演の概要をお伝えしたいと思います。

山崎さんからのコメント

「本当にいい発表だと思いながら聞いていました。今回は職員のみなさんが都筑区のある地区をモデル調査をし、提案したものです。ただ、現段階では地域の皆さんの意見は入っていない状態です。来年度からは、区民と一緒に地域を調査して、課題を共有し、対話をしながら物事を決め、実行していくことが大事だと思います」

講演 「人と人をつなぐコミュニティデザイン」



住民が主役のまちづくり

2007年からお手伝いした、島根県海士町の取り組みをご紹介します。声をかけてくれたのは町長ですが、まちの総合振興計画を作る上で、「住民の方々と一緒に考えて作りましょう」と話し、「行政が実施する計画本編」と「住民提案の活動アイデアを集めた別冊」の二冊の計画を何十回にもわたるワークショップを町民の皆さんと進めながら作成しました。

別冊は**住民自身が「自分たちにもできそうだし、やってみよう」と思った提案**が書かれたものです。1人、10人、100人、1000人でできることという分類分けになっており、また「住民主体の提案・実行型の意見しかこの中には入れません」というルールにしたため、提案を検討するときに来た産業、ひと、暮らし等のチームに分かれて、少しずつですが、アイデアを実現させてます。

その中でも水質を調査した環境チームは、日本名水サミットの誘致までしました。普段はまちづくりに参加しないような若い男性から、元ヤンキーの方まで多種多様な人が力を合わせてまちづくりに取り組んだ事例です。



行政は地域の声を聞く

地域の方々が自分たちであたらしいことを、どんどんデザインをしていき、地域を良くしていこうとする。そこで地域の方々の声を聞く。これがまちづくりの第一歩です。区民とどう対話するのか、区民と何を取り組んでいくのが大事です。そして区民の皆さんのやる気をどう醸成するのか。このことを行政は考え、**区民もやりたいと思えるようなプロジェクトを共に生み出していくことが重要です。**

区民は地域と向き合う

区民の皆さんも、**自分たちのまちをよくしていくのは、他の誰でもなく自分たち自身**であるし、自分の子どもたちが、このまちに帰ってきたいと思う気持ちをどう醸成していくのが大事だということを考えるのが重要です。皆さんの背中が子供達に見られているのです。役所や学校頼みにするのも損だと思いませんか。ひょっとしたら**まち全体の資産価値を上げていく**かもしれません。「都筑区は、まちの活動をしている人が多くて、引っ越したら友達がたくさんできそうだ」。そういう風に言われるような区の方が皆さんの人生やまちを豊かにするんじゃないかと思えます。

質問タイム「つづきのこれからをつくるヒント」



Q1. 新旧住民が混在しているまちづくりのヒントと、どんな人がリーダーとしてふさわしいのでしょうか？

A. テーマで交流していった方がやりやすいと思います。大阪の泉佐野という地域もニュータウンと古い地区が混在しています。その間にあるのが泉佐野丘陵緑地で、ここで公園を自らの手で作りたという市民チームをつくることしました。新旧住民が交流する場を作ることが狙いです。公園整備という共同作業を通じ、お互いを理解しあえる仕組みを作りました。



チーム発展の4段階



社会学者タックマンが唱える「コミュニティの発展段階説」では、リーダーとなる人は、混乱期に自然と炙り出されてくると思います。プロジェクトを進めていくと、性格が見えてきます。取り組みを進めていく上で、喧嘩もすると思います。

この時に最後まで諦めず、意見の調整をしていた人を自然とリーダーだとメンバー自身が認識し始めます。別に選挙をやる必要なんかないと思いますよ。

Q2. 地域デビューをするときはどうすればいいか？

協働事務室の利用者・団体を増やす工夫
アクティベーターの養成



・小学6年生～50代まで市内外17名が参加
・11月から養成講座を開始

A. まずは地域デビューしている人を遠目で眺めることができる環境づくりが必要なんじゃないでしょうか。

東京立川市の子ども未来センターというところでは、地域の活動団体に対する支援をしています。関わり始めるうちに、市民活動をしている団体の周りに地域活動してみたいと考えている人が結構いることがわかってきました。「なにか活動に関わりたい」という人向けの講座を作ると、17人も手が挙がりました。地域デビューしたいと思っている人には「やりなさい」と引っぱり出すのではなく、**もう既に活動している人たちが、いろんな場所で、いろんなテーマで活動していくのが、その人たちを刺激するのです。**そういう場が都筑のまちなかにどれだけあるかが大事になるのではないのでしょうか。

Q3. 地域づくりのトレンドを教えてください。

A. 地域づくりを担う「まちづくり協議会」が最近の一つのトレンドになっています。かつては地域のことは、町内会レベルで全て行っていました。現代では、その町内会の機能が産業化され、また職住も分離し、地域の中で完結することができなくなりました。町内会の機能はかつてと比較すると相当小さくなってきています。そこで、**町内会がかつて担っていたことを果たす新たな組織を再編しよう**というのが、まちづくり協議会なんじゃないかということです。その中でどんな新しいことをやるか。それを考えていくことがとても大事です。仕事を内部化し、町内会を株式会社にしてもいいわけです。福祉や教育も同様です。そのような新しい制度を使いこなして、新しいトレンドを作っていくのがいいと思います。それが、この都筑区からできたらと思えますし、また何よりも皆さんの地域の生活がすごく豊かになっていくのではないかと思います。

